

前回のふいかえり(H30年度 第2回 6/18開催)



企業の取り組みを知る part1 ～郵便局のみまもりサービス～

地域での支えあいの仕組みをつくっていくためには、今後、地域にある施設や企業、商店など、様々なところとの連携が必要になってきます。そこで、まずは、身近にある企業の取り組みについて勉強することになりました。

今回は、協議体メンバーの宮野さんより、郵便局の取り組みについて報告いただきました。“郵便局のみまもりサービス”は、月に1回、郵便局社員が利用者宅を訪問し、ご家族へ生活状況を報告するサービスです。現在のところ、町内の利用は1件のみとのことですが、利用されている方は、遠方に住む息子さんより、“郵便局のみまもりサービス”を紹介され、「顔なじみの郵便局員なら・・・」と利用を決められたとのこと。メンバーのみなさんは、「郵便局が見守りをしているとは知らなかった!」と驚かれていました。一方で、「利用の件数が増えすぎると、対応が難しくなるのでは?」との心配の声もあがっていました。



また、宮野さんも参加されている、筑後地区郵便局長会では、地域貢献事業の1つとして、婚活イベント“ポストコン”を企画されています。この企画は、若い人たちが地元で出会い、地元の周辺に住み続けてもらうことを目的としていますが、将来的には、“子供や孫が近くに住んでくれることで親の安心にもつながる”との話に、メンバーのみなさんも大きく頷かれていました。



<メンバーのみなさんより>

- ・老人クラブでも見守り活動を行っている
- ・居場所に参加することが見守りにつながっている（今区健康サロンの取り組み）
- ・月に1回の見守りに2,500円は高いのでは？親からすると「そんなことにお金を使わなくていい」という感覚。
- ・小地域協議会でも情報交換をしているが、自分たち（参加者）だけでの見守りになっている
- ・商工会に加入しているのは小さな商店。何かしようにもマンパワー不足。どこまで対応するか・・・。大きな企業のほうが動きやすいのでは？

今回は、“郵便局の見守りサービス”のお話を伺いましたが、サービスを利用する前に、「大刀洗町では、地域での見守りも行われていますよ」とのお声掛けもいただいているそうです。小地域協議会をはじめ、地域での情報共有の場はありますが、そこに参加する人たちだけの話になってしまうこともあり、別居している家族までは情報が入りにくいという現状もあるようです。その対応をどうしていくか、今後、地域ごとに考えていくことが必要になるかもしれません。

次回は、セブンイレブンのお届けサービス「セブンミール」について、セブンイレブン大刀洗本郷店の多田さんよりお話を伺います。（生活支援コーディネーター）

